

ほそかわもりさだ よしこ
昭和10年代の 細川護貞・温子

国指定史跡復原整備完成記念 企画展

近衛家と細川家 着物が紡ぐ家族の記憶



会期 令和7年(2025)

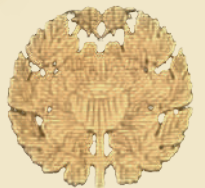
1月11日(土)~3月9日(日)

- 開館時間:午前9時~午後5時 ●休館日:毎週月曜日・毎月第3木曜日、※祝日・休日の場合は開館、翌平日休館
- 観覧料:100円(中学生以下・障害者手帳等を提示する方およびその付き添いの方は無料、20名以上の団体 1人80円)

〒168-0061 東京都杉並区大宮1-20-8 TEL.03-3317-0841
<https://www.city.suginami.tokyo.jp/histmus/index.html>



杉並区立郷土博物館
Suginami Historical Museum



近衛家と細川家 着物が紡ぐ家族の記憶



この え ふみまる よし こ ほそかわもりたつ もりさだ
近衛文麿の次女・温子と 細川護立の長男・護貞は、父親同士に親交
があったことから幼なじみであり、愛を育て、昭和12年(1937)4月に
結婚しました。二人の間には、長男の護熙と次男の護輝が生まれました
が、昭和15年(1940)に温子は病気により22歳という若さでこの世を去
りました。

護貞は、昭和15年に首相・近衛文麿の秘書官となり、終戦直前には高
松宮や重臣たちによる和平計画の連絡役も務めました。また、次男・護輝
は、伯父で文麿の長男の文隆がシベリア抑留中に死去したことから、昭和
40年(1965)に近衛家の養子となり、近衛忠輝と改名しました。このよう
に、近代において近衛家と細川家には、家族を通じたつながりがありました。

本展では、細川家に奇跡的に残されていた着物の中でも、温子が実際
に着用した振袖をはじめ、近衛・細川両家が所蔵する温子の写真や、当館
所蔵の温子の作文などを展示します。



左上:鼠縮緬地牡丹模様の着物
左中:薄茶縮緬地滝壺松鳥模様の振袖
左下:黒縮緬地雲橘罫子模様の振袖



黒紋縮緬地孔雀模様羽織



▲薄茶地鼓模様帯(部分)

【関連イベント】

講演会 明治・大正・昭和の女性の着物
— 伝統継承と近代化の融合が生み出した着物の美 —

長崎 巖氏
(共立女子大学名誉教授・丸紅ギャラリー副館長)
[日時] 令和7年2月1日(土) 午後2時~午後4時
[会場] 本館 視聴覚室
[定員] 50名(抽選)

[申込方法]
東京共同電子申請・届出サー
ビスより申込または往復はが
きに「講演会参加希望」、氏名
(ふりがな)、年齢、住所、電話番
号を記入。1月22日(水) 必着

お申し込みは
こちらから

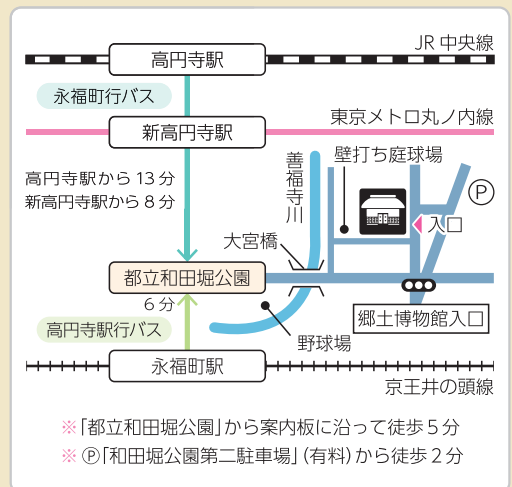


展示解説

[日時] 2月8日(土)・3月1日(土) 両日とも午前11時~午前11時30分/午後2時~午後2時30分
[会場] 本館 特別展示室
※事前申し込み不要 直接展示室へお越しください

 **杉並区立郷土博物館**
Suginami Historical Museum

開館時間: 午前9時~午後5時
休館日: 毎週月曜日・毎月第3木曜日(祝日・休日と重なった場合は開館し、翌平日が休館日)
観覧料: [本館] 100円 (20名以上の団体は1人80円)
※中学生以下、障害者手帳等を提示する方およびその付き添いの方は無料



■交通案内

- ・京王井の頭線「永福町」駅北口から徒歩15分、
又は「高円寺駅」行きバスで「都立和田堀公園」下車徒歩5分
- ・JR中央線「高円寺」駅南口・東京メトロ丸ノ内線「新高円寺」駅から
「永福町」行きバスで「都立和田堀公園」下車徒歩5分